

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>清 冽 ゆかし、清水谷 「朔風荒ぶ世なりとも（校歌）」潔さと正義感をもった「清冽」な生き方を希求し、市民としての力量を備えた、おとなを育てる。そのために、生徒たちには「背伸び」の楽しさを体得させ、教師は「背伸び」の面白さを伝え、安心して「背伸び」できる学びの環境を整える。</p> <p>1 学習活動の充実 自分には何がわかっていて、何ができないのかをマッピングでき、他者に適切に教えを乞うディーゼンシー即ち「ゆかし」の精神の涵養を基礎に、不断の授業改善を行い、質・量ともに充実した学習内容の提供に努める。また、生徒が主体的に学習に取り組む態度を養う。</p> <p>2 部活動の振興 部活動を通じてルールやマナー、豊かな人間性と社会性、チャレンジ精神並びに継続する力を養う。</p> <p>3 自治活動の尊重 体育祭・文化祭などの学校行事を通じて、生徒の自主、自律、創造する力を高めるとともに、集団と個人とのよりよき関係づくりを学ばせる。</p>
--

2 中期的目標

<p>1 学習指導の充実</p> <p>(1) 生徒に将来の夢と目標を明確にさせる指導を計画的・系統的に行い、その実現に向けて能動的な学修に取り組む環境を整え、生徒の意欲を喚起するとともに、魅力ある授業の実践に努め、さらなる「学力」（平成 26 年 12 月中教審答申のいう「従来型の学力」ではなく）の向上を図る。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりが興味・関心と学修意欲を十分に持てるよう教育課程、授業内容について不断の検証を行う。また、毎学期の終わりに、学修状況等を振り返る時間を設定することにより、家庭学習の重要性を理解させ、予習・復習の習慣を定着させるなど、生徒が能動的に学修に取り組む態度を養う。</p> <p>(3) 講習、特別講座など学習指導を充実させる教育活動を幅広く実施する。また、生徒の多様な進路希望に対応できるよう、進路に関する資料・情報等を収集・整理し、適切に提供するとともに進路についての助言・指導を行うことで、生徒の「内破する力」の育成に努める。</p> <p>※ 生徒の学校評価に関する調査において、進路実現に関する項目の肯定率が 83.4%（平成 27 年度）であった。この数値が維持・向上する取組みを継続する。</p> <p>2 生徒指導の充実</p> <p>(1) すべての教育活動を通じて、生徒の自主性を育て、より望ましい人間関係を構築できるよう努める。</p> <p>(2) 生徒自治会、部活動をはじめとする課外活動の充実と振興を図る。</p> <p>(3) 教育相談体制の充実を図り、生徒一人ひとりにきめ細かい指導・支援ができるよう配慮する。</p> <p>(4) 「時を守り、場を清め、礼を正す」ことへの生徒の意識、意欲を涵養する。</p> <p>(5) 学校いじめ防止基本方針を踏まえ、生徒が安全で安心な学校生活を過ごせるよう努める。</p> <p>※ 生徒の学校評価では、自治活動（平成 27 年度 82.0%）や部活動（平成 27 年度 96.1%）に対する肯定率は高い。また、部活動加入率も 85.8%（平成 27 年度）と高い。これらの数値を維持・向上させる取組みを継続し、自制心・やり抜く力など「非認知能力」を高めることで生徒の「内破する力」の育成に努める。</p> <p>3 学校運営の充実</p> <p>(1) 情報の共有化と P R 活動の充実</p> <p>ア 校内における情報の共有化を図るとともに、積極的かつ速やかな情報発信に努める。</p> <p>イ 中学生、保護者等を対象とする学校説明会等を効果的・計画的に実施し、本校教育活動に対する理解を深めるとともに本校の貢献すべきことを明示する。</p> <p>(2) 危機管理体制の確立</p> <p>ア 自然災害をはじめ、火災、事故や感染症等が生起する虞があることを常に念頭に置き、防災・危機管理体制を確立する。また防犯についても十分な体制をとる。</p> <p>(3) 施設、設備の計画的な管理</p> <p>ア HR 教室、準備室、特別教室等、校地校舎全般にわたり、備品の整理保管及び施設の保全に努める。</p> <p>イ 機会あるごとに校舎、校具等への愛護心を養うように指導し、校内美化運動に取り組むとともに、環境問題についても関心を高める。</p> <p>(4) 生徒、教職員の健康管理</p> <p>ア 健康に関する関心を高めることにより、自己の健康管理に努める。</p> <p>イ 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化し、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。</p> <p>(5) 人権教育の推進</p> <p>ア あらゆる教育活動の場で人権教育を展開する。また、障がいのある人々や在日外国人問題への理解を深める。</p> <p>イ セクシュアル・ハラスメント、体罰、児童虐待についての啓発を行うとともに、教職員の人権意識とスキルの向上を図る。</p> <p>(6) 地域連携の推進</p> <p>ア 学校、PTA、同窓会がひとつになって、本校における教育活動が充実する取組みを行う。</p> <p>イ 部活動等においては、地域の文化の発展につながるような活動にも参画することを推進する。</p> <p>○ 生徒は「清水谷に来て良かった」89.2%、保護者は「行かせてよかった」95.6%（平成 27 年度）といずれも満足度は高い。こうした満足度を維持しつつ、そうした満足の内実が教育の「差異化」（広田照幸）の流れに掉さすものでないのか、「ペアレントクラシー」（P. ブラウン）への道に歩むものではないのか、など冷静に分析する必要があるとも考えている。本校としては、目標を自ら見出し、他者と協働しながら、社会の形成者として活躍できるよう「政治的教養」等も含め、自らを「内破する力」を生徒たちに育てたことを満足できる取組みを継続する。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>・昨年度から全調査項目を「清水谷高校は・・・」の形に統一しており、本校の教育についての問いかけにしている。</p> <p>【学習指導】</p> <p>・ 学習状況を問うものについて、昨年度新設した「学ぶ意欲を引き出す授業」への肯定率は 72.2%で、今後も、公開授業や研究授業、教科及び教科間等における研究協議に取り組み、生徒が「能動的に学修する」土壌づくりをめざす。</p> <p>・ 「学習習慣を定着させる指導」への肯定率は 70.8%であり、今後も主体性のある学習態度育成をめざす。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>・ 「相談できる」体制や「人権を考える機会」については大幅に上昇し、生徒の「自主性」を問う項目はいずれも回復傾向にある。学習活動・部活動・自治活動の 3 本柱を堅持したい。</p> <p>・ 今後も生徒の安全・安心を守り、生徒が安全に失敗できる環境を維持する。</p> <p>【学校運営】</p> <p>・ 保護者からの評価はほぼ全項目にわたって上昇し、「入学して良かった学校」への肯定率は 95.9%となった。携帯メールの活用が効果的であった。</p> <p>・ 教職員の「授業や評価を検討する機会（75.5%：昨年度 75.0%）」への肯定率上がっているが、もっと「問題意識を話し合いたい」とする機運が切実に高まってきており、O J T や職員研修の場を増やしたい。</p> <p>・ 教職員間の情報共有や授業・評価のブラッシュ・アップの場等のさらなる充実をめざす。</p>	<p>第 1 回（6 月 7 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度学校教育計画について、了解を得た。 授業視察においては、生徒の真摯な授業態度に感銘を受けた。アクティブラーニング的活動が見られたが、教師の説明を聞く時間が長く感じられた。 進路指導については、分析を踏まえ課題達成に向けて指導してほしい。 <p>第 2 回（11 月 2 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 先進校事例見学や教員がお互いに授業見学をするなどの積極的な取組みは評価できる。部活動加入率が高いことも素晴らしい。 授業公開の取組みを進め、自分が知りたいと思う時に生徒は吸収できるので、より一層アクティブラーニングを進めてほしい。 <p>第 3 回（2 月 21 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が清水谷で学ぶことでの満足度が高いが、部活動・自治活動・学習活動の三本柱が浸透している結果と思われる。 生徒の回答での肯定率上昇には、入学時の難関を突破した満足感もある。 教員による相互の授業見学などの取組みが高い授業評価につながっている。教員が授業に力を入れていることは保護者としてうれしい。 学区撤廃後の学校の雰囲気の違いはあるのか？ もっと生徒の個性を引き出せる取組みがあればよいと思う。 スマホの使用時間が学習時間の減少を招いているのではないのか？

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導の充実	<p>(1) 生徒の「企(せのび)」を支援するための取組み ア 能動的な学修体制づくり</p> <p>イ 振り返りHRの発展</p> <p>ウ 講習や補習、自主学習等の充実</p> <p>エ 進路指導の充実</p>	<p>(1) ア・能動的な学修を展開するための指導方法について授業公開月間(11月)を中心に研究を進める。28年1月の職員研修で出た多数の提案について協議をすすめ、実施できるものを実現させてゆく。 ・年2回実施する授業アンケートの結果を教員の資質向上に繋げる。</p> <p>イ・各学期末の「志学」の時間(名称:振り返りHR)に活用し、生徒の目標設定や学習意欲の向上に努める。</p> <p>ウ・長期休業中や放課後等において、生徒の進路希望に応じた講習等を行い、一方で家庭等での自主学習時間を充実させる。</p> <p>エ・生徒の進路実現を支援するため、適切な情報提供・指導に努める。また、影響の大きい保護者の進路意識の状況を調査し、情報提供に努める。</p>	<p>(1) ア・「教員の間で、授業方法や評価のあり方等について検討する機会が多い」への肯定率を5%以上あげる(前年度75.0%)。また他校訪問や研究会活動への参加等積極的な自己研修の状況を調べる。</p> <p>イ・27年度新設の評価項目「清水谷高校は学ぶ意欲を引き出す授業をしている」につき70%以上(前年度68.9%)の肯定を得る。</p> <p>ウ・本校は「学習習慣を定着させる指導をしている」(前年度69.9%)と考える生徒たちの状況をより詳細に調査する。</p> <p>エ・センター試験出願者数70%以上の回復をめざす。 ・国公立大学を訪問先とするPTA大学見学会を継続する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10月24日(月)から「主体性のある学習態度育成」のための授業見学を実施。 ・11月に東京都立両国高校・小山台高校への先進事例視察を実施。職員研修において、事例を周知した。 ・「教員間で授業方法等の検討機会ある」の肯定率75.5%(△) ・授業アンケート結果をもとに、教員が授業改善を図れるよう「振り返りシート」を配付し、活用を求めた。 ・学ぶ意欲を引き出す授業肯定率72.2%(◎) ・振り返りHRの集計結果を教科ごとに示し、授業改善に活用した。 ・2年生9月の平日自宅での学習時間0時間49分(昨年度52分) ・学習習慣を定着させる指導肯定率70.8%(○) ・10月31日から、放課後の自習室開放を18:30まで延長する試行をはじめた。 ・センター入試出願者昨年度181名56.4%から237名74.5%に増加した。(◎) ・PTA大学見学会6月21日に大阪市立大学訪問に保護者85名参加。12月大阪教育大学キャンパスガイドに生徒及び教員が参加。
2 生徒指導の充実	<p>(1) 自主・自律の態度を育む取組み</p> <p>(2) 配慮を要する生徒を支援する取組み</p>	<p>(1) ・生徒の自主性や自律心並びに人間関係形成能力を育み、「企(せのび)」の楽しさや「内破」する苦を経ての達成感を味得させるために、28年1月の職員研修で出た多数の提案について協議をすすめ、実施できるものを実現させてゆく。 ・学校いじめ防止基本方針等に基づき、生徒が安心して「企(せのび)」や「内破」ができる安全な学校生活を送れるよう環境整備と指導に努める。</p> <p>(2) ・配慮を要する生徒に対して教員間の意思疎通を踏まえスクールカウンセラーとも連携し、ケース会議を開催するなど組織的な指導・支援を継続・充実させる。 ・社会の私事化が進むなか、教育の公共性を保つことについて、生徒や保護者との真摯な意思疎通を広げ深める。</p>	<p>(1) ・前年度5ポイント以上下がった学校行事や自治会活動への積極性に関する肯定率を回復する。 ・生徒の「人権教育」に対する肯定率は、74.6%(前年度)である。「人権」の意味を確認させながら数値の向上に努める。 ・保護者から放射線被害への懸念が出た東北HR合宿を意義あるものとして成功させる。</p> <p>(2) ・本校の相談体制に対する肯定率は、72.3%(前年度)である。日々、悩みの兆候等の観察や意思疎通につきOJTを重ねる。 ・保護者の「家庭への連絡や意思疎通」に対する肯定率は61.7%(前年度)である。3分の2以上をめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事が積極的の肯定率87.0%(昨年度88.3%)(△) ・自治会活発が活動であるの肯定率84.7%(昨年度82.0%)(○) ・「学校は人権を学ぶ機会を設けている」肯定率81.4%。今後も、進路指導やHR合宿などの学校行事と関連させて人権教育に取り組む。(◎) ・東北HR合宿を10月18日から21日に実施。放射能の懸念での欠席者2名にとどまる。民泊での農業体験など好評であった。(○) ・「学校は悩みがあるときに相談できるようになっている」肯定率81.1%。個別の指導計画の作成やケース会議の開催などは、スムーズに運営できている。(◎) ・これまで緊急時のみ活用していた保護者向け携帯メールを週1回送付し、保護者との意思の疎通を図った。このことにより、「家庭への連絡や意思疎通」に対する肯定率75.9%に向上(◎)
3 学校運営の充実	<p>(1) 真のPR(Public Relations)の充実</p> <p>(2) OJTの活性化</p> <p>(3) 学校、PTA、同窓会が一体となった取組み</p>	<p>(1) ・中学生やその保護者、在校生の保護者、卒業生をはじめ、多くの関係者に学校の教育方針を理解し、応援いただけるよう情報発信を一層充実する。 ・学校説明会等を中学生にとっても「企(せのび)」の場となるよう工夫する。</p> <p>(2) ・この数年で年齢構成が大きく変わる本校の今後について、ベテラン教員と経験の少ない教員の意思疎通を図りながら、学校の将来像を求めつつ、互いの力量を高めていく。</p> <p>(3) ・生徒が自立した社会人として成長できるよう、同窓会やPTAと連携して、卒業生等を講師とした講演会などを企画・実施する。</p>	<p>(1) ・本校のアドミッション・ポリシーを提示し、学校説明会等で中学生及び保護者の共鳴度等の反応を調査し、ブラッシュアップにつなげる。</p> <p>(2) ・「まじめな雑談」も含め、より細やかな意見交換を望む職員が増えている。OJTに適宜OffJTを加えながら意思疎通の円滑化を図る。</p> <p>(3) ・各学期に1回以上、講演会等を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校主催の学校見学会・体験入学を昨年度から1回増やし5回開催とし参加者の増加を図った。13回の中学校等主催の学校説明会に参加。中学校訪問は、教員業務軽減のためあえて実施しなかった。中学生進路希望調査第1回の結果、昨年度649名今年度633名(○) ・すべての教員が授業見学を行い、主体性のある学習態度育成について研究協議及び意見交換を実施。(○) ・11月24日先進事例視察報告研修会を開催。12月5日教員人権研修「LGBT」について学ぶ。11月12日生徒対象の同窓会主催「先輩からのメッセージ」研修会開催。(○)